

平成21年度 小中野小学校 学校評価アンケート結果 I

評価 4：十分当てはまる 3：おおむね当てはまる
2：ほとんど当てはまらない 1：当てはまらない 0：わからない

	観 点	評価	評価					考察・改善点 等
			4	3	2	1	0	
① 基礎基本の定着	◎基礎基本の確実な定着を図るよう指導の工夫に努めている。	教員	% 28	% 66	% 6	% 0	% 0	・個に応じた指導ということで、4・5年の算数科によるTTによる指導、習熟度別指導、TTや専科、教務主任を活用した少人数指導、担任や教頭・教務主任による個別指導、「スタディサポーター」を活用した学習支援を実施し基礎基本の定着を図ることができた。 ・教師がついての朝自習（火・木）の実施や放課後、学級の枠を超えて学年での個別指導の実施により基礎・基本の定着を図ることができた。 ・教師や保護者が思っている以上に、児童は先生の授業は分かりやすくていねいに教えてくれていると感じている。
	・学校では学習内容の定着を図るように努めている。	保護者	27	63	4	0	6	
	・先生の勉強は、分かりやすいですか。	児童	59	35	6	0	0	
② 個に応じた指導	○個に応じた指導の充実に努めている。	教員	22	67	11	0	0	・一人一人を大切にしたい指導が十分行われていないと感じている保護者が、分からないも含めると20%（97人）もいる。もっと自分の子に手や目をかけて欲しいと願っている現われであろう。子供達と向き合う時間を工夫して見つけなければならない。
	・学校では一人一人を大切にしたい指導の工夫に努めている。	保護者	18	62	11	2	7	
	・先生は勉強が分からないときていねいに教えてくれますか。	児童	65	28	4	1	2	
③ 学習のしつけ	○学習規律や学習スキルを意識して授業を行っている	教員	50	28	22	0	0	・校内研修のサブテーマに「学習スキルの活用」を掲げて、4月に共通理解を図り、教室にも小中野式学習スキルを掲示して取り組んできた。特に「話す力」と「聞く力」をつけることに重点を置いて取り組んだが、児童のアンケートの結果を見ると、25%が十分ではないと思っている。 ・保護者に、今学校で何を重点に取り組んでいるのか、よく伝わっていないので、学校新聞・ホームページ等で情報を提供して協力をお願いしていかなければならない。
	学校では児童の学習のしつけが身につくように努めていますか。	保護者	22	62	11	1	4	
	・あなたは勉強するときのきまりを守っていますか	児童	35	47	13	3	2	
	・勉強のとき、しっかり話しっかり聞いています	児童	32	41	20	5	2	

	か。							
④ 学 習 習 慣	○家庭と連携した学習習慣の形成に努めている。	教員	11	78	11	0	0	<p>・小中ジョイントスクール事業の中学校区一貫指導8項目の重点事項の1つとして、「家庭学習」を取り上げて、学習連携部を中心に家庭学習（内容・時間・やってこない人数）について話し合った。今後は、一歩踏み込んで、家庭学習の習慣化が図られるような小中一貫した取り組みを工夫していく必要がある。</p> <p>・家庭学習は、小学校のうちに習慣化しておかなければならないので、家庭学習が十分でない児童には電話で家庭に協力をお願いしたり、参観日や個人面談で直接話し合ってお願ひしたりしてきた。その結果、宿題をやってくる児童は増えてきた。しかし、アンケートの結果からまだまだ習慣化されているとはいえない。</p> <p>・宿題に関しては、児童は高い評価をしているが、自分から進んでやっているかは疑問である。家庭と連携した学習習慣を形成するための手立てを工夫する必要がある。</p>
	・あなたのお子さんは進んで家庭学習を行っている。	保護者	14	46	31	8	1	
	・あなたは宿題を忘れずにやっていますか。	児童	65	22	9	3	1	
⑤ 基 本 的 生 活 習 慣	◎基本的な生活習慣の育成を図るように努めている。	教員	39	44	11	0	6	<p>・基本的生活習慣を育成するための学校の取り組みには、ある程度保護者に理解していただいております。教師と保護者がほぼ一致しているが、児童は、全体的に高い評価をしている。</p>
	・学校は基本的生活習慣が身につくように努めている。	保護者	28	61	8	0	3	
	・あなたは学校や学級の約束を守って生活していますか。	児童	44	41	11	3	1	
⑥ 道 徳 性	○道徳の授業の充実に努めている。	教員	11	72	17	0	0	<p>・道徳部で、月毎に「重点価値」を設定して、各学級に掲示用のプリントを配付して意識付けを図り、授業を行った。また、学年内でできるだけ道徳の時間を同じ時間、同じ曜日に設定して、道徳の時間を確保し学年内で授業についての情報交換ができるようにした。また、年6回の参観日のうち、1回は道徳の授業を公開して、保護者への啓蒙も図ってきた。以上のような取り組みの結果、道徳の時間が確保され、内容の充実も図られ、道徳で勉強したことを普段の生活に活かそうとする児童が多くなってきた。</p>
	・あなたのお子さんは進んでよいことをしようとしている。	保護者	13	60	23	3	1	
	・道徳で勉強したことを生活の中で進んで行おうとしている。	児童	37	38	17	6	2	
⑦ あ い さ つ	○あいさつ運動の推進に努めている。	教員	22	50	28	0	0	<p>・6月の「児童総集会」で「あいさつをよくするにはどうすればよいか」話し合った。その結果、曜日ごとに全員が昇降口に立って「あいさつ運動」をすることになり、しっかりあいさつをしようという意識が高まった。2学期は、新型インフルエンザのためにほとんど実施できなかった。機運が高まっていただけに残念であった。</p> <p>・今年度は、小中ジョイントの地域活動連携部の企画により、小中学生、保護者、教職員が通学路に立って、4日間あいさつ運動を実施した。児童への啓蒙はもちろんであるが地</p>
	・あなたのお子さんは進んであいさつをしている。	保護者	24	52	20	3	1	
	・あなたは進んであいさつをしていますか。	児童	50	34	12	3	1	

								域への啓蒙にもつながったと思う。 ・アンケート結果を見ると、児童と先生、保護者の間には、かなりのずれがある。児童は進んであいさつをしていると評価しているが、先生方・保護者はまだ十分ではないと感じている。今後は、あいさつの質を上げていく必要がある。
⑧ 生活習慣	○家庭と連携した生活習慣の形成に努めている。	教員	6	83	11	0	0	・基本的な生活習慣は、学校だけでは身につけることはできない。躰は家庭が出発点である。家庭と協力・連携してこそ身につけることができるものである。そこで、学校だよりや参観日の機会等をとらえて、保護者に呼びかけ啓蒙を図った。 ・今年度も小中ジョイントスクールの生活連携部で、小中共通の「小中野っ子5つの実践」を設定して取り組んだ。 ①元気にあいさつ ②朝ごはんを食べる ③くつをそろえる ④6時～6時30分に起きる ⑤自分の足で登校する 児童には、全校朝会で生徒指導主任が度々話をしたが、家庭には周知されていなかったようである。(学校だより、チラシでは知らせたが) 今後は、全家庭に掲示用のチラシを配布するなどして、家庭へ啓蒙を図り、連携して取り組む必要がある。
	・あなたのお子さんは「小中野っ子5つの実践」を実行している。	保護者	6	56	24	3	11	

平成21年度 小中野小学校 学校評価アンケート結果 II

平成22年2月26日

項目	観 点	評価	4	3	2	1	0	考察・改善点 等
① 生活指導	子供が良好な友達関係を築けるような学校(学級)づくりをしている。	教員	% 17	% 77	% 6	% 0	% 0	・「良好な友達関係」について児童、保護者、教員とも90%以上が良好と答えている。「十分当てはまる」と答えた児童は、昨年度69%であったが、今年度は77%と向上がみられた。「良好でない」と答えた児童は昨年度の8%から5%となり、約26名が友達関係は良好でないと感じている。 ・おしゃべりウイークなどでの児童理解やよさを認め合う共感的な学級経営に取り組み異年齢集団の活動など仲間意識の構築、道徳的実践力の向上に努めてきた結果の表れである。 ◎良好でないと答えた児童もおり、今後も継続して共感的な人間関係づくりを育む指導に努めていく。 ○よさを認め合う学級経営の推進 ○道徳的実践力の向上
	子供は学校で友達と仲良くしている。	保護者	48	48	3	0	1	
	友達と仲良くしていますか。	児童	77	17	4	1	1	
② 学校行事	子供は楽しそうに学校行事に参加している。	教員	50	44	6	0	0	・「楽しそうに学校行事に参加している」については、児童、保護者、教員とも90%を超えている。しかし、児童については7%、約37人が「楽しくない」と答えている。 ・児童に目的を持たせて活躍の場をつくり、一人一人の特性に配慮した指導をし
	・子供は楽しそうに学校行事に参加してい	保護者	55	40	5	0	0	

	る。 ・運動会等の学校行事は楽しいですか。	児童	74	18	5	2	1	て成就感を味わえるようにしてきた結果の表れである。 ◎学校行事を通して児童を育むという視点に立ち、主体性を持たせて取り組みせ、活躍の場のある学校行事にしていく。 ○目標を持たせての主体的な活動 ○一人一人の特性に配慮した指導
③ 学 校 運 営	学校の教育方針や指導の重点はわかりやすい。	教員	28	66	0	0	6	・「教育方針や指導の重点は分かりやすい」については、保護者の十分あてはまるが21%、おおむね当てはまるが62%で、「あてはまらない」が11%である。この割合は昨年度とほとんど変っていない。 ・学校新聞や学校便り、参観日、ホームページなどで情報を発信してきたが、アンケートでの向上は見られなかった。 ◎教育方針や指導の重点を日常の教育活動と関連させながら具体的に情報を発信していく。 ○学校新聞、学校便り、ホームページなどの工夫 ○参観日の利用 ○保護者向け学校要覧の作成配付
	学校の教育方針や指導の重点はわかりやすい。	保護者	21	62	10	1	6	
④ 教 職 員	子供ががんばったことを認めている。	教員	33	67	0	0	0	・「先生ががんばったことを認めてくれる」は、児童、保護者、教員とも90%を超えている。児童については、昨年度の「十分当てはまる」「おおむね当てはまる」の合計が81%であったが今年度は91%と改善の傾向が見られた。「当てはまらない」との回答は、保護者7%、児童は7%（約37名）であった。 ・児童理解に努め一日1回は声掛けするなど、学習の場で評価し意欲を向上させるように努めてきた結果の表れである。 ◎7%（約37名）の児童が認めてもらえないと答えているので、今後更に児童一人一人に寄り添った学級経営と指導に努めていく。 ○学習での活躍の場と評価 ○個に応じた指導の工夫
	先生は子供のがんばったことを認めてくれる。	保護者	40	51	5	2	2	
	担任はあなたのがんばったことをほめてくれますか。	児童	64	27	5	2	2	
	子供を理解するよう努め間違っ行動には厳しく指導している。	教員	44	56	0	0	0	
	先生は子供を理解し間違っ行動には厳しく指導している。	保護者	40	49	6	2	3	
	学級の先生はよくないことをしたとききちんとしかけてくれますか	児童	86	11	2	0	1	
⑤	学校や子供の様子等の	教員	28	66	6	0	0	・「子供の様子等の情報を家庭に提供している」については、保護者84%、教

広報活動情報提供	情報を家庭に提供している。							員94%となっている。保護者の「十分でない」が昨年度の20%から15%へと改善してきている。
	学校は、学校や子供達の様子等の情報を家庭に提供している。	保護者	24	60	11	4	1	・保護者の話を聞き、受け止めて真摯に対応してきたこと、また参観日での懇談、個人面談、電話連絡、家庭訪問、学級通信、学校便り、保健便りの発行などで児童の情報発信に努めてきた結果と考える。 ◎児童を共に育てていくという視点に立って、お互いの立場を尊重しながら連携を進め、情報発信に努めていく。 ○保護者の話を真摯に受け止めて子育てを共有する ○学級だよりの発行
⑥ 安全性	子供の安全性を考えた指導や訓練を行っている。	教員	50	50	0	0	0	・「子供の安全性を考えた指導や訓練を行っている」については、教員は100%、保護者は94%である。また、児童は94%が「真剣に訓練に取り組んでいる」と答えている。
	学校は、子供の安全性を考えた指導や訓練を行っている。	保護者	40	54	4	1	1	・今年度、地域の協力を得ながら下校訓練や緊急連絡網の整備など、保護者と連携して児童の安全指導と安全確保に取り組んできた結果の表れである。 ◎今年度の指導体制を具体的に点検し、今後に向けて家庭・地域・学校が更に連携してより安全な指導体制づくりと安全意識の高揚に努めていく。 ○安心安全まちづくりとの連携 ○緊急時の下校方法構築とその周知
	あなたは、避難訓練や交通安全教室に真剣に取り組んでいますか。	児童	66	28	4	1	1	
⑦ その他	他人を思いやる心を育てるように努めている	教員	39	61	0	0	0	・「思いやりを育てる」では「当てはまる」は教員100%、保護者85%、児童89%である。しかし、「十分当てはまる」は保護者が低く24%、「当てはまらない」は12%で十分ではないと思っている保護者が多い。
	学校は、友達を思いやる心を育てている。	保護者	24	61	11	1	3	・友達関係で不安を感じている児童がいる。また、そのことについて保護者として心配しているという状況があると考える。
	あなたは、友達にやさしくしていますか。	児童	57	32	8	2	1	◎今後も、更にあらゆる機会をとらえて一人一人の児童の声に耳を傾け、保護者との連携を図りながら学級経営を基盤に思いやりの心を育んでいく。 ○思いやりを育む道徳指導 ○好ましい人間関係の育成
	子供は、学校に来ることを楽しみにしている。	教員	33	67	0	0	0	・「当てはまる」は教員100%、保護者91%、児童89%となっている。「十分」は教員33%、保護者47%、児童69%と認識に差がある。
	お子さんは学校に行くことを楽しみにしていますか。	保護者	47	44	6	2	1	・「当てはまらない」は保護者8%、児童10%(約53名)である。学校が楽しくないと感じている子の気持ちに寄り添っての配慮や指導が重要である。 ◎日々、一人一人の様子や思いを把握して声がけをしたり、学校行事などで活躍の場や居場所をもてるようにしたりするなど配慮ある指導が必要である。
	あなたは、学校に来るのが楽しいと思っていますか。	児童	69	20	6	4	1	○活躍の場や居場所づくり ○学級における支持的風土づくり ○明るく協力的な人間関係の育成

ますか。								
------	--	--	--	--	--	--	--	--

平成21年度 小中野小学校 学校評価アンケート結果 III

平成22年2月26日

—— 八戸市内小・中学校継続指導8項目について ——

8Dプラン	観 点	評価	4	3	2	1	0	考察・改善点 等
① 気持ちよい返事やあいさつができる	子供は進んであいさつをしている。	教員	% 6	% 72	% 22	% 0	% 0	アンケート結果Iの通り
	あなたのお子さんは進んであいさつをしている。	保護者	24	52	20	3	1	
	あなたは進んであいさつをしていますか。	児童	50	34	12	3	1	
② 話をしっかりと聞き取ることができる	子供はしっかりと話を聞き取ることができる。	教員	0	67	33	0	0	・「当てはまる」は、教員67%、保護者69%、児童は82%。 まだまだ十分とはいえない状態である。 ◎学校で取り組んでいる学習スキルをもとに全教職員が共通理解を図り、話の聞き方を指導していく必要がある。 ○聞く態度と心を育む ○要点や意図を捉えて聞く力の育成
	お子さんは話をしっかりと聞き取ることができる。	保護者	16	53	28	2	1	
	あなたは、人の話をしっかりと聞いていますか。	児童	38	44	13	3	2	
③ 正しい言葉遣いではっきりと話す	子供は、正しい言葉遣いではっきりと話すことができる。	教員	0	50	44	6	0	・「当てはまる」は、教員50%、保護者63%、児童79%である。「十分でない」は教員50%、保護者36%であり、児童との認識の差が大きい。 ◎時と場合に応じた言葉遣いについて、日常の中で体験的に指導をしていく必要がある。 ○言葉遣いと態度の一体的な指導 ○ふさわしい言葉遣い
	お子さんは、正しい言葉遣いではっきりと話すことができる。	保護者	10	53	31	5	1	
	あなたは、正しい言葉遣いではっきりと話していますか。	児童	30	49	13	5	3	
④ 身の回りの整理整頓や清掃を自分で行う	子供は、身の回りの整理整頓や清掃を自分で行うことができる。	教員	0	72	28	0	0	・「当てはまる」は、教員72%、保護者52%、児童82%。「十分でない」は保護者47%である。 ◎児童は、指摘されてから行った場合も「行うことができた」と認識する傾向がある。自分からできるようにする手立てを工夫し、継続して指導する必要がある。 ○必要性を認識させる手立て ○場や時間の設定 等
	お子さんは、身の回りの整理整頓や清掃を自分で行うことができる。	保護者	11	41	40	7	1	
	あなたは身の回りの整理整頓や	児童	45	37	13	4	1	

	そうじをきちんとやっていますか。							
⑤ 進んで読書ができる	子供は進んで読書をしている	教員	33	61	6	0	0	<p>・「十分」は、教員94%、保護者48%、児童81%。「十分でない」は保護者51%で、認識の違いは家庭での過ごし方と関係あると考えられる。</p> <p>◎学校では時間を設定するなどして読書指導に取り組んでいるため、読書好きの子が増えてきている。家庭ではその様子があまり見られず、保護者の願いの表れと考えられる。</p> <p>○図書室の活用 ○読書環境づくり</p>
	お子さんは進んで読書をしている。	保護者	17	31	38	13	1	
	あなたは進んで読書をしていますか。	児童	49	32	13	6	0	
⑥ 家庭学習ができる	子供は家庭学習をきちんと行っている。	教員	6	88	6	0	0	アンケート結果Iの通り
	お子さんは進んで家庭学習を行っている。	保護者	14	46	31	8	1	
	あなたは宿題を忘れずにやっていますか。	児童	65	22	9	3	1	
⑦ 自他の生命を大切にできる	子供は自他の生命を大切にすることが身についている。	教員	11	78	11	0	0	<p>・「当てはまる」は三者ともに80~90%台である。「十分」は、教員11%、保護者32%に対し児童69%である。</p> <p>◎これも認識に差があるが、学校と家庭で自尊感情を育みながら他の人も含め一人一人のよさを認めてあげることと、折に触れて命を大切にすることを語っていくことが大切と考える。</p> <p>○自分や他の人を大切にすること ○命を大切にすること</p>
	お子さんは自他の生命を大切にすることが身についている。	保護者	32	55	11	1	1	
	あなたは生き物を大切にしていますか。	児童	69	23	6	1	1	
⑧ 目標を持ち粘り強く努力することができる	子供は学習や運動に目標を持ち粘り強く努力している。	教員	17	72	11	0	0	<p>・「十分」は、教員17%、保護者16%に対し、児童55%である。「当てはまらない」は保護者31%であり認識に差がある。子供が努力していないと考えている保護者は31%（約163名）で、児童は12%（約63名）が努力していないと答えている。</p> <p>◎これも教員と保護者の願いが出ているといえる。努力していないと考えている児童については受け止め方の問題もあるので、単に否定的に捉えるのではなく一人一人の思いと実態を把握していく必要がある。</p> <p>○自分のよさに気づく指導 ○スモールステップでの指導</p> <p>○めあてをもち努力する大切さやよさに気づかせる</p>
	お子さんは学習や運動に目標をもち粘り強く努力している。	保護者	16	53	26	5	0	
	あなたはめあてをもって勉強や運動に取り組んでいますか。	児童	55	32	8	4	1	